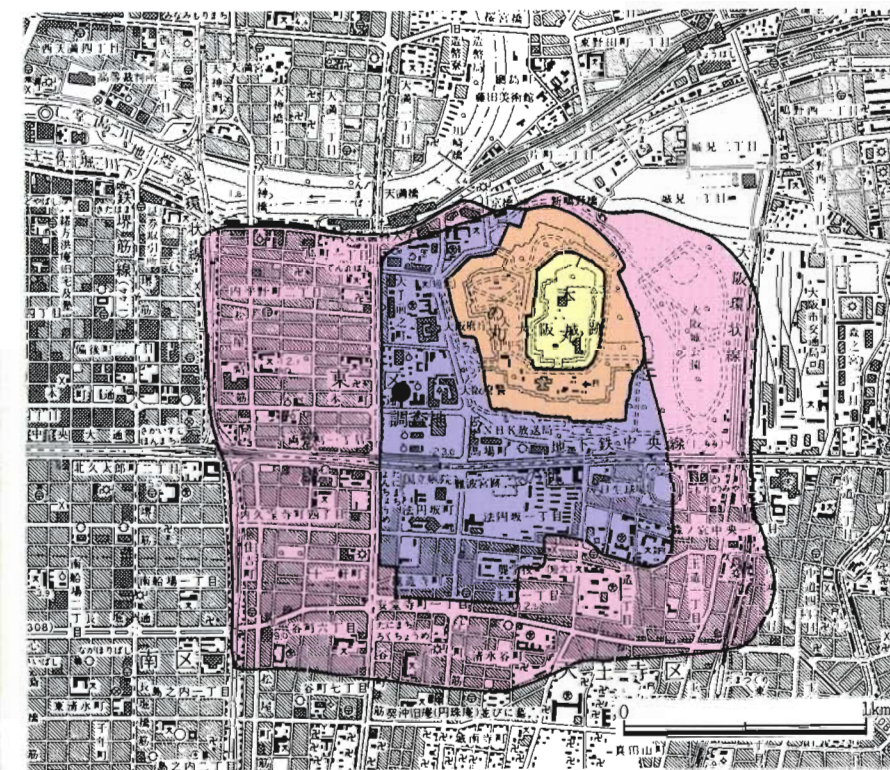


大坂城跡の発掘調査



豊臣期大坂城外郭線推定図

西暦	年号	できごと
1582	天正10	本能寺の変 山崎の合戦
1583	天正11	賤ヶ岳の合戦 秀吉、摂津を領有 本丸築城開始
1584	天正12	小牧・長久手の戦い 本丸完成
1585	天正13	秀吉、関白となる
1586	天正14	二の丸築造開始 秀吉、太政大臣となり豊臣姓を名乗る
1588	天正16	二の丸完成 刀狩令
1590	天正18	秀吉、天下統一
1591	天正19	千利休、自害 関白を秀吉に譲る
1592	文禄元	文禄の役
1594	文禄3	惣構築造開始
1595	文禄4	秀吉から関白職を剥奪、自殺させる
1596	慶長元	慶長の大地震
1597	慶長2	慶長の役
1598	慶長3	三の丸築造開始、秀吉死す
1600	慶長5	関が原の合戦
1603	慶長8	家康、征夷大將軍となり、江戸幕府を開く
1605	慶長10	秀忠、征夷大將軍となる
1609	慶長14	秀頼、方広寺大仏再建に着手
1614	慶長19	大坂冬の陣 大坂城外堀を埋められる
1615	慶長20	大坂夏の陣 大坂城落城 豊臣氏滅ぶ
1615	元和元	松平忠明、大坂城主となり、城跡整理を行う
1620	元和6	幕府による大坂城の修築工事開始
1626	寛永3	天守竣工、本丸普請成る
1629	寛永6	大坂城再築工事完成

大坂城関連年表

大坂城三の丸とは

本能寺の変で織田信長が倒れた後、賤ヶ岳の合戦で柴田勝家を破った秀吉は、大坂に本拠地となる城をつくる計画をたてました。本丸、二の丸が完成した後、惣構の堀を掘って城の形はできましたが、秀吉は重病中にもかかわらず、惣構の内側に三の丸をつくることを命じました。三の丸には、伏見から多くの大名屋敷を移転させ、軍用施設なども設けられたといわれています。秀吉の死後も工事は続けられ、翌年にやっと大坂城は完成しました。

三の丸は、大坂冬の陣の後に完全に破壊されたため、以前は位置や規模がわかりませんでした。ところが、『偃台武鑑』の「大坂冬の陣配陣図」に三の丸がはっきりと描かれていることがわかり、位置が推定できるようになりました。

た。さらに最近、周辺での発掘調査が進み大阪市中央体育館などの調査によって、徐々に三の丸内の屋敷や堀、石垣などの状況が明らかになりつつあります。

調査経過

今回の調査は、大阪府庁舎周辺整備事業に伴うもので、新別館建設予定地にあたります。いままでの調査成果により、大坂夏の陣後の江戸幕府による約4mにも及ぶ盛土のほか、造成に伴う相次ぐ盛土がなされており、豊臣時代の生活面が現地表下約8～9mにあることが知られていました。このため、周囲に鋼矢板を打ち込んで、土留めをおこなった調査になりました。豊臣時代の生活面の下には、さらに遺物包含層が堆積しており、現地表下11.5mでは奈良時代の遺物がみつかっています。

今回の調査では、豊臣期の大坂が慶長3年（1598）におこなわれた三の丸築造で、大きく姿をかえていたことがわかり、このうち三の丸築造以前においては、この地区一帯に武家屋敷と職人の町屋の広がっていたことが明らかになりました。

（１）武家屋敷群

武家屋敷群は、調査区の中央から西側を中心としています。屋敷地は調査区の中央で発見された東西溝（幅60cm、深さ40cm）を北の境として、そこから南へのびる南北溝により区分されています。東西溝には蓋がありませんでしたが、南北溝（幅40cm、深さ20cm）にはすべて蓋板が被せられており、連続する屋敷地を東西に分けています。

各々の屋敷地は東西18m程で、おおむね10間を単位としています。建物は5×3間程（約60m²）の大きさで、礎石の上に根太（床を支える横木）をわたし、瓦ぶきの屋根がのっていたこともわかりました。

建物の内部は、東側に床下を掘ってつくられた囲炉裏が設けられており、ここを居室として西側を玄関とした形がわかります。台所は南側の建物にあります。特に調査区中央の屋敷には大きさの異なる5連のかまどが設けられ、大人数の食事を賄っていたこともわかりました。

東西溝は街路の側溝と考えられますから、この地域は大坂城へむかう道に面して設けられた小規模な武家屋敷のならぶ町であったということもできます。ただし小規模とはいえ、この武家屋敷の一角から金箔瓦が出土しており、このなかには秀吉に近い武士がいたことも考えられます。

しかしこの屋敷群に住んでいた人達も、三の丸の築造に際して、瓦と建築材が捨てられ、壁が倒され、金時絵の調度品を忘れ、膳はかまどへくべられ、移転を余儀なくされます。その時の様子を伝える「日本西教史（にほんせいきょうし）」によればこの時に移転させられた家は1万7000戸におよぶとされています。



①



②

蓋板のある溝で区切られた武家屋敷群



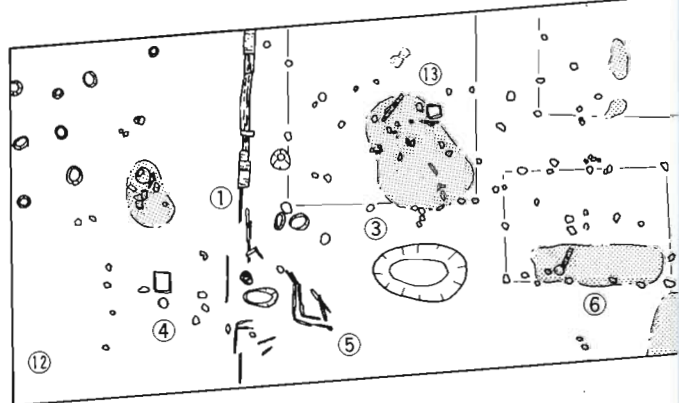
③



④



⑤



板組みの側溝

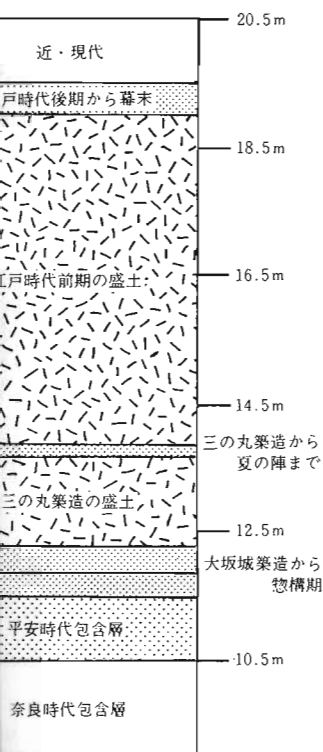


巴紋金箔軒丸瓦



⑦

⑨

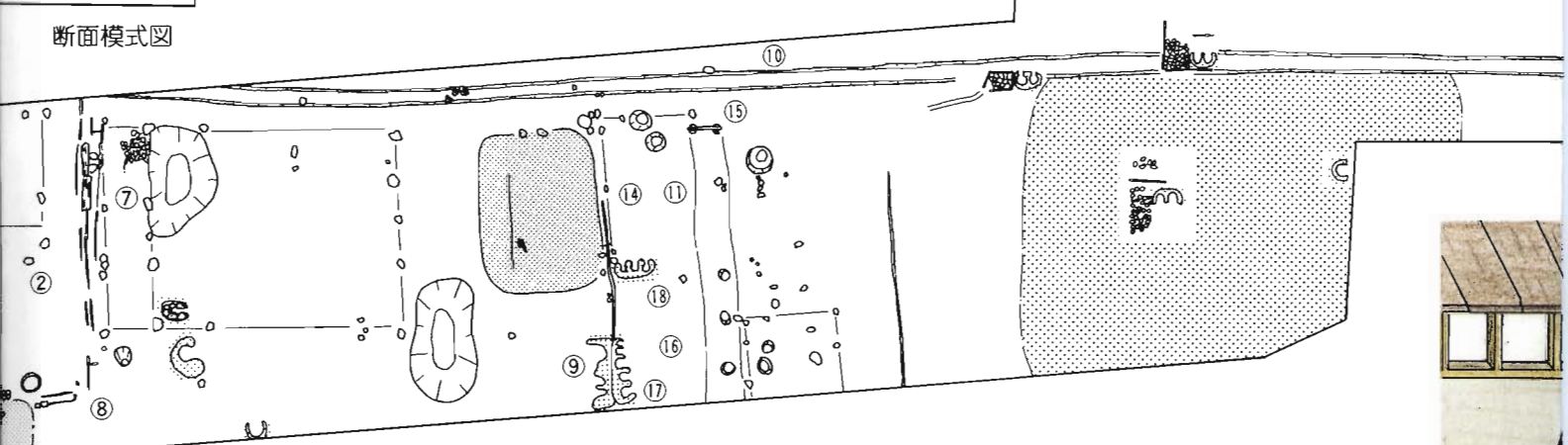
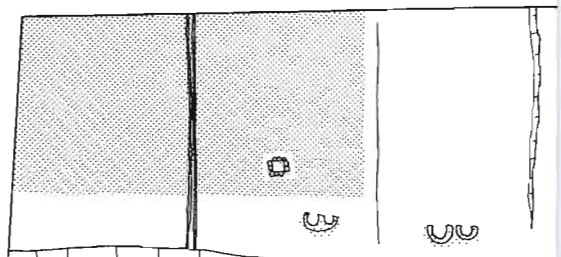


⑧

南北溝検出状況



小柄 (亀甲・桐紋入り)



崩壊した壁土



矢じり

⑫



庖丁 ⑬

菊紋金箔瓦



10



14



武家屋敷の台所

15



11

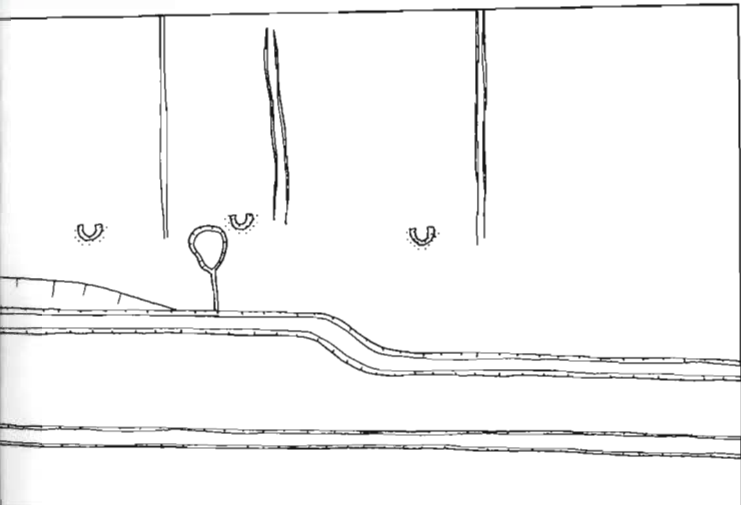


15

礎石と根太



17



18

かまどのバラエティー



武家の生活

(2) 職人の町屋

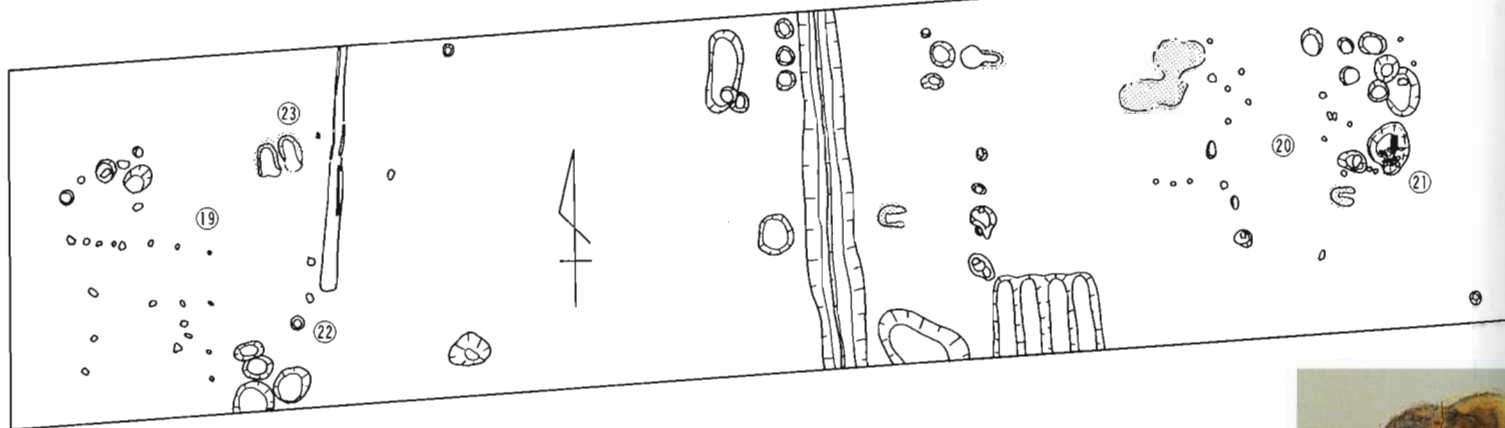
今回の調査では、このような武家屋敷群以外に、その下層から職人の町屋も発見されています。武家屋敷群の造成により、その建物などの詳しい様子は明かにすることができませんでしたが、調査区の西端から鑄造に用いられた溶解炉の底部が発見され、調査区の中央から鑿（のみ）が2本発見されています。大坂城を築き、城下町を構成したさまざまな人々の様子をうかがう貴重な資料といえます。

2、主な遺物

瀬戸美濃窯（せとみのよう）の黄瀬戸（きぜと）の向付・天目茶碗、中国製染め付け碗、丹波窯の擂り鉢などがみられますが、日常食器でもっとも数の多いものは漆碗で、破片など100点近く出土しています。そのほかに硯・石臼などの石製品、飾り金具・小柄（こずか）などの金属製品も出土し、なかでも小柄の中には柄に亀甲と桐紋の装飾が施されたものがあります。



町屋の一角（ゴミ穴・かまど）



鑄造溶解炉



かまどと漆碗



瀬戸美濃窯黄瀬戸向付



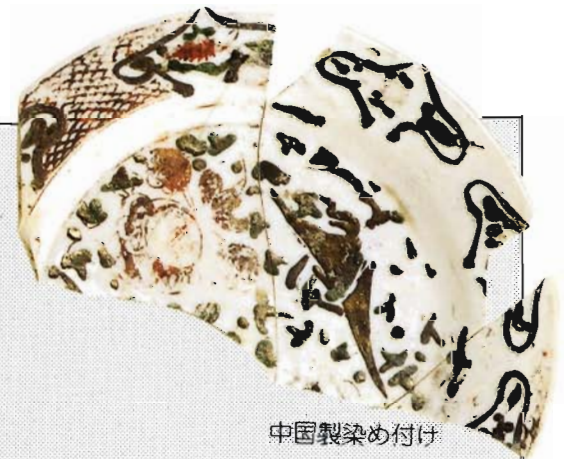
②
ゴミ穴から出土した樽とひしゃく



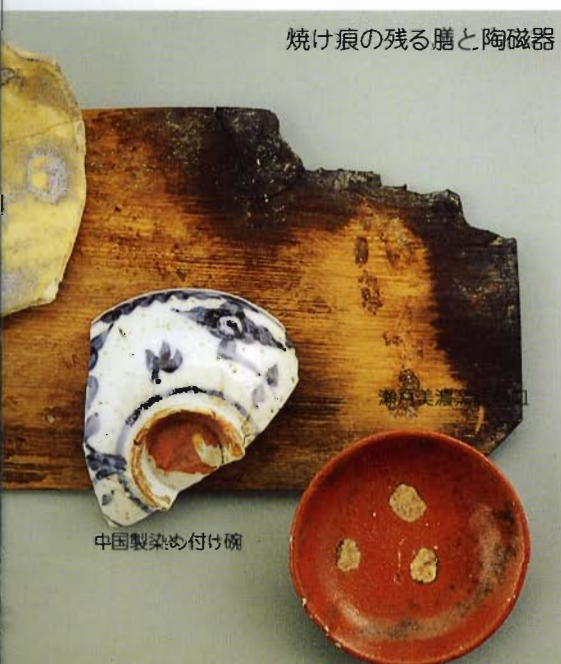
のみ
工具各種（上から鑿2点、漆へら、釘5点）



軒丸瓦（福文字）



中国製染め付け



焼け痕の残る膳と陶磁器

中国製染め付け碗



町屋の台所